2014年度

KITA

JICA研修コースの実績紹介

「中南米地域：生産性向上活動普及」（ボランティア連携）
」

2014年9月10日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

1. 研修コースの紹介

1)コースリーダー / 河崎　克彦

2)研修コース 名

・和文：　中南米地域生産性向上活動普及（ボランティア連携）

・英文：　Dissemination of Productivity Improvement Activity in the Latin-America Counties.
(In Cooperation with Volunteer Activities)

3)研修受入れ期間：　2014/6/03 ～ 2014/7/19

4)参加研修員：　7名　（4カ国）

【参加研修員の国名】

メキシコ合衆国
United Mexican States

2名

ドミニカ共和国
Dominican Republic

2名

コロンビア共和国
Republic of Colombia

2名

パラグアイ共和国
Republic of Paraguay

1名

研修参加国　4ケ国　（7名）

2. 研修目標

KITA

案件目標

JICAシニア海外ボランティアの指導を受ける中小零細企業支援機関において、生産性向上技術が導入される。

自国での検討～実施

↑

日本での研修

QC7 特性要因図の演習

単元目標①
品質・生産管理の概念を説明できる。

単元目標②
生産現場で発生しているムリ、ムダ、ムラ(3M)を発見し解決できる。

単元目標③
品質・生産管理に関する課題について、現場の状況に応じて実行可能な改善計画を提案できる。

単元目標④
研修員帰国後、品質・生産管理に関する課題の改善計画について具体的な実施方法が検討できる。

3. 達成度（単元評価）

- 各講座共に研修員の到達度評価は、高い点数となっています。
- 殆どの研修員は現場を知らず、今回の様な本格的研修は初めてのようであり、低いレベルからのスタートとなりましたが、最終的な講師評価では基準値の「3」を超えた成績を達成することができました。

（質問票(B)の解答より）

１．単元目標を達成しましたか？

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
単元１	5	2	0	0
単元２	3	4	0	0
単元３	5	2	0	0

中島ターレット社長より改善取り組みの講義

研修員コメント

【単元1】 生産と品質の概念についての新たな方法論であった。
【単元2】 企業訪問は素晴らしかった。重要ポイントを理解する上で非常に役立った。特に工場見学では、より知識を深めることが出来た。
【単元3】 企業における製造や品質を改善するための良い方法論であった。

4. コースリーダー所感

1. アクションプランを作る能力をつけることが、このコースの目的であり、全体像の把握と問題点の絞り込みが重要な要素となります。この手法にQCが有効な手段となりますので今年度は初期段階の講座にQCを取り入れましたが、研修員は上手く活用してくれました。

2. 研修見学で訪問した各企業は、それぞれが独自で5Sや工場改善を実施しており社員全員での自主改善活動や情報のオープン化と共有化について研修員は、そろって感心していました。

3. 研修員全員の意欲が高く、理解力も優れておりましたので各研修員のレベルアップに繋がった有意義な研修コースとなりました。アクションプランの作成準備では、遅くまで研修員同士でディスカッションや相互協力が重ねられ立派な報告書が完成しました。

4. 当コースの研修が単なる「知識人」を養成することでなく、現場の問題点を解決してゆく、「知恵者」の養成に役立つものと信じています。研修員の帰国後の行動如何が研修の目的達成に直結しますので帰国後のアクションプランの実行と成果を期待したいと思います。

研修員の感動スピーチ
（於：閉講式）

閉講式でスピーチされたホセさん
（コロンビアから参加されました）

Mr. ROA GUTIERREZ Jose Alfredo (通称：ホセさん)の謝辞
～研修員代表～

◆和訳全文をご紹介します。

当研修でお世話になりましまた皆様に感謝します。

JICAとKITAに対して、当研修を開催していただいたことを、心よりお礼申し上げます。特に河崎コースリーダーや全ての先生方に対してお礼を申し上げます。また、JICA関係者には我々の来日の手続きをして頂き有難うございました。

コロンビアから参加されたホセさん

私たちは、多くの知識や経験を持って帰国しようとしています。技術的な側面ばかりでなく、この数週間で大変貴重な経験をたくさん積むことができました。研修の最初の頃に宮本講師から「おそらくあなた方は生産性についてノウハウを良くご存じでしょうが、研修中は日本で生産活動が機能してきたノウハウについて良く勉強するように」とコメントをいただきました。

研修を終える本日、私たちは日本で生産性が発展してきた理由をより深く理解することができたことをご報告することができます。また、それは私たちの国で大きな影響を与えることができる私たちの組織で不足しているものでもあります。私たちの来日当初より、滞在中も含めて、私たちは全ての活動について高い計画力というものを拝見しました。

また、それは、自分達にはできない非常に高いレベルであると考えさせられました。企業視察では、分刻みの視察が計画されていることを実感しましたし、計画に合うよう進行されていました。また、小さな企業においても三年計画で方針を立てられていることも理解できました。

閉講式で古野理事長より修了書を授与されました。

訪問した企業においても、列車の時刻がきちんと守られているように毎日の生活が規律正しく行われていることを知りました。規則を守る事や時間を守る事も研修の初日から大変勉強になりました。

企業視察では、訪問した企業の規律正しさが設計にも反映されており、他の活動を展開するための標準仕様にも反映されていました。その結果、実働する人達の全てが、操作・作業しても同じ結果が得られることも理解できました。

もう一つ、日本人の皆さんの改善を実現するための欲求について触れたいと思います。企業の中でも作業員の方が200以上の提案をされているとお聞きしました。全てが高い品質を有するものではないそうですが、最小の時間で考え、書き、提出するということは、その会社を改善しようとするその作業員の関心の高さを表しています。

また、20年で環境を取り戻した北九州市も偉大な例の一つでした。そして、日本の企業は継続的な改善を果たそうとする世界中の企業の参考となります。

安川電機協力会のQCサークル発表会会場

継続的な改善の道を進んできた日本の素晴らしい企業で働いてこられた講師の皆さんから今回勉強をする機会をいただき、ご経験や知見を分かち合って頂きました。また、現場で働くことの重要性や異なる規模の企業を訪問し、各々生産性に関する改善内容も勉強させて頂きました。

そして、常に道具が近くに配置され、その道具が工場でどのように使用されているのか、作業ルールも観察ができました。これら全てがめったに経験できるものでなく生きた教材でした。この7週間の間、そのような経験ができて私たちは非常に幸運でした。今回の研修で直接、あるいは間接的にお世話になった皆様へのお礼の気持ちでいっぱいです。

私たちの一番の良いお返しは、研修中に学んだ全ての知識を自国に持ち帰り、実践することだと考えております。

アリガトウゴザイマシタ！

6. 研修アルバム

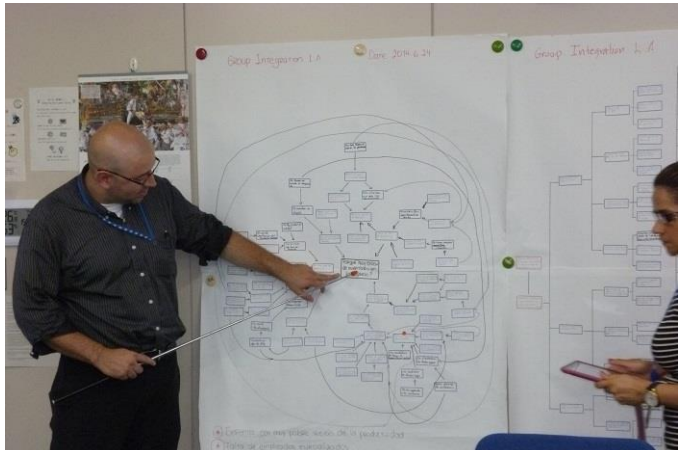
ジョブレポート発表会。講師方々と記念撮影

安川電機モ-トマンセンターにて

ロボットの動きに感動！

村上精機5Sリーダーと意見交換会

新QC七つ道具演習



問題点と対策（改善）手法の勉強

2つのグループに分かれ改善内容を発表

アクションプラン終了後、研修員一同でお祝い